屋代駅市民ギャラリーについて

【ご意見】（令和７年５月９日受付）

今回、屋代駅のギャラリーでの展示が出来なくなったと聞きました。

展示・発表の場、機会がなくなり非常に残念でなりません。

駅のギャラリーだと、場所的にわかりやすく、行きやすいところですし、列車の時間待ちにふらっと寄ってくれる方もいます。

書道会では、小学生など学生の作品も展示され、お子さんも、親御さんも張合いにされているそうです。

子供中心の千曲市としては、そのような場は大切な事ではないでしょうか。

また、展示期間中でも、学生の学習スペースは確保できる訳で、共存も出来、その学生にも、良い影響を与えるのではないでしょうか。

作品を展示されていた各方面の皆さんへの打診も特になかったとの事。

今回、どのような経過でそうなったのか。

今後、また駅のギャラリーでの作品展示が出来るよう切に願いながら、その回答、説明をしてほしいと思います。

【回答】

このたびは貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。

屋代駅市民ギャラリー（以下、「市民ギャラリー」といいます。）は、これまでは名称のとおり文化振興を目的とした展示を行ってまいりましたが、過去３年の利用率は 40%前半にとどまっており、施設が閉まっている期間が多いことから、駅ナカという賑わいの中心でありながら暗く寂しい印象を与えてしまっていたため、新たな活用方法を検討する必要がありました。

しなの鉄道屋代駅の１日当たりの乗降者数が、この５年間で約 1,000 人も減少するなどの課題を踏まえ検討を進める中で、市民ギャラリーの利用者、千曲商工会議所、地元商店街及び地元中高生を対象にアンケートを実施したところ、「文化振興以外への貸出しの拡大」、「飲食可能なフリースペース」などの意見が多数寄せられました。

アンケートの結果を受け、令和６年度には「文化振興以外への貸出しの拡大」、「貸出しのない期間はフリースペースとして開放」したところ、フリースペースの１日当たりの利用者は 17.6 人にのぼるなど成果を得ました。加えて、かねてより当市は「こどもまんなか宣言」を行うなど子育て支援に力を入れていることや、学習に取り組む学生に対し市庁舎ガレリアに代わる場所を提供する必要があること等を考えあわせ、こども、若者の居場所づくりを推進し、「子どもや若者の支援」や「学習スペースの確保」を図ることを、今後の市民ギャラリーの活用方針とすると定めました。

一方で、市民ギャラリーが作品展示の場としては利用できなくなることにつきましては、令和６年５月に、前年度に市民ギャラリーを展示会場として利用された団体の代表者にお集まりいただき、その旨を丁寧にご説明申し上げ、ご理解とご協力をお願いしたところであります。これからは、「アートまちかど」や市庁舎ガレリア及びマルチルームを作品展示の場としてご活用ください。

今後、新しい活用方針に基づき条例を改正していく中で、今回頂戴したご意見の中にあります「学習スペースと作品展示の共存」というご指摘につきましては、検討させていただきたいと思います。

担当　総務課